



銚子ジオパーク市民の会ニュース

第125号

2023年9月28日発行

発行責任 工藤 忠男

銚子ジオパーク市民の会

URL: <https://choshi-geopark.com>



4年ぶりの
勉強会バスツアー

銚子磯めぐりの背景を訪ねて 出口節
バスツアー聞けば聞くほど 新事実

九月十六日、20名によるバスツアーは定刻の午前八時に銚子市役所前を出発した。川原氏の挨拶、係の松家氏の日程説明、全員の自己紹介を行った。講師役の栗林氏によって利根川東遷の完成から銚子発展の源となった利根川水運の概略、銚子磯めぐりの歴史等、車窓からの風景を眺めながら、分かり易いガイドがあった。小見川の三分目大塚山前方後田墳(古墳)はそのままの姿を見ることができ印象深かった。

茨城県利根町布川に着き赤松宗旦旧居跡に入る。宗旦は医師で1888年に開業、1889年に私財を投じて資料の収集や実地調査を重ね、利根川流域の歴史や人の生活、伝説などを描いた全六巻の利根川図志を完成させた。後に民俗学の父と呼ばれ、昭和26年の文化勲章受賞者となった柳田國男にも大きな影響を与えた。



赤松宗旦旧居跡にて

國男は少年期を布川で過ごしている。千葉県印西市木下に入り昼食をとる。吉岡まちかど博物館にて文化文政期に流行した木下茶船による三社詣りと、オブショナルツアー銚子磯めぐりの寄港地としての木下河岸跡、銚子汽船会社木下支店の間屋吉岡家の存在、明治天皇の侍従山岡鉄舟が吉岡家に書いた「銚港丸」の直筆などを拝見。最後は天然記念物「木下貝層」の成り立ちを上田学芸員から分かり易い説明を受けた。ありがとございます。

大吠埼でラストサマーと称して「夜間灯台見学会」が行われました。通常夕方5時で灯台見学は終了しますが、夏の3日間参観時間が延長され夜間公開されました。初日の8月26日(土)は夕方5時から7時半まで公開されました。旧霧笛舎も倉庫も皆開放されており、旧霧笛舎では、ボタンを押すと懐かしい「モオー」という霧笛の音を聞くことが出来ました。その後灯台に登りました。九十九段の内階段はかなりきつかったです。私の後からおひとりの女性が登られて来ました。幕張から来られたそうです。灯台は、自然点灯

ラストサマー 1日目に参加して 向後 和子

するということで私達以外にも沢山のお客様が、今か今かと待ち構えていました。灯台は6時20分頃点灯しました。エメラルドグリーンに輝く第1等4面閃光レンズの美しさに感激して、スマホやカメラ

等皆さん撮影していました。その後15秒感覚で大海原に光の帯が放たれました。



大吠埼プラントン会の越川さん、銚子ジオパーク市民の会の会員でもあります。当日は灯台のガイドとして活躍。足元をよく見ると・・・



敷地内側溝 浅い側溝の窪みは銚子石です。次回の灯台参観時に見てみましょう。



千葉県仕様のコーラ 裏側には大吠埼灯台が！観光協会でも販売されています。



灯台は色々な色にライトアップ



※自然点灯 灯台の点灯・消灯は、レンズ室の上部に取り付けられた「日光センサー」と呼ばれるセンサーが外の明るさの変化を感知し、自動的にガラス部を覆っているカーテンが巻き上げられ、次に、2連装のメタルハライドランプズ1本は予備が点灯し、レンズが回転する。